

産業動物・展示動物の 病理検査



日ごろから、伴侶動物（ペット）以外の動物にも、
病理診断がもっと身近なものにならないものかなと考えています。

「よく見る病気」や「～って言われている病気」は、果たして本当にそうなのでしょうか？
病理診断ができれば、少し違う観点から病気にアプローチができるのではないのでしょうか？

しかし、やはり費用などのことを考えると、躊躇される先生が多いかもしれません。

そこで、気軽に手軽な新しいサービスを始めました！

対象：

- ・生産動物（牛、馬、豚など）
- ・動物園、水族館動物（哺乳類以外の動物は事前にご相談ください）



診断医：

- ・総括責任者：河村 芳朗（獣医師、獣医学博士）
「大学時代の経験をフルに使って社会に貢献したいと思います！」
- ・アドバイザー：三井 一鬼（獣医師、獣医学修士、米国獣医病理学専門医（ACVP））
「皆様の大切な動物の健康を守るお手伝いができるよう、切磋琢磨を続けてまいります！」

価格：

- ・¥6,000/1臓器
- ※追加臓器や剖検症例の料金は柔軟に対応いたしますので、検体送付前にご連絡ください。

特徴：

- ・診断書には、原則として200字以内の、診断名 + 組織所見 + （必要に応じて）コメントが含まれます（次頁のサンプルをご参照ください）。
- ・病変を説明するために、複数枚の組織写真を添付します。
- ・診断書はメールにて送付させていただきます。
- ・1週間程度の診断期間を頂きます。
- ・肉眼観察および切出し（組織標本作製部位の決定）は訓練を積んだ獣医師が行います。

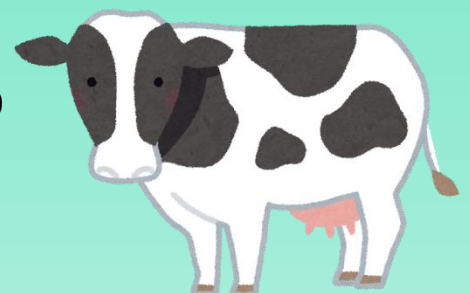
検査のご依頼書は弊社ホームページからダウンロードできます。メールをいただければ折り返しお送りすることも可能です。何か分からないこと・ご相談事等がございましたら、何なりとご連絡ください。

多くの動物の病理診断への境界線をなくすための足掛かりになればと思います。



ご連絡先

Tel 042-315-4092 Fax 050-3153-0639
E-mail terry.the.kid0625@gmail.com
住所 〒183-0053 東京都府中市天神町3-16-2
パレススメール1階南側





組織病理検査診断書

施設名	ノーバウンダリーズ動物園	カルテ番号	123-4567
患者様名	サンノスケ様	受付番号	YP15004
齢数	13歳9ヵ月	受付日	2015年5月5日
性別	♂	発行日	2015年5月12日
動物種	モモンガ	送付部位	胃幽門部の腫瘍・リンパ節
品種	アメリカモモンガ		

診断名

胃（幽門部）の神経内分泌癌 Gastric (pyloric) neuroendocrine carcinoma

所見

幽門部の胃粘膜～漿膜にかけて、異型性や多形性に富む、内分泌細胞由来の腫瘍細胞が胞巣状あるいは索状に増殖しています。腫瘍細胞は、多角形で、好酸性顆粒状の細胞質、大小不同の核を有しています。核分裂像はほとんど認められません。腫瘍細胞のリンパ管浸潤像と近傍リンパ節への転移が認められます。

また、粘膜では潰瘍が形成されています。

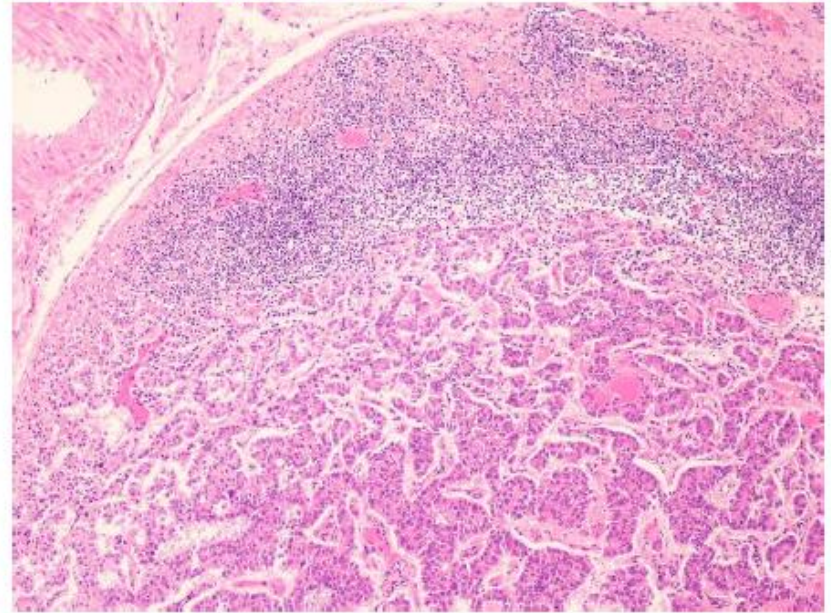
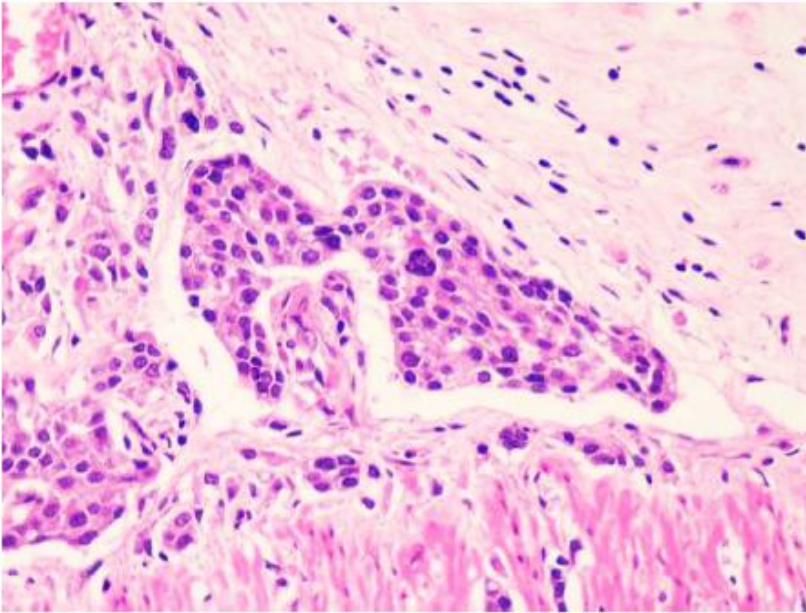
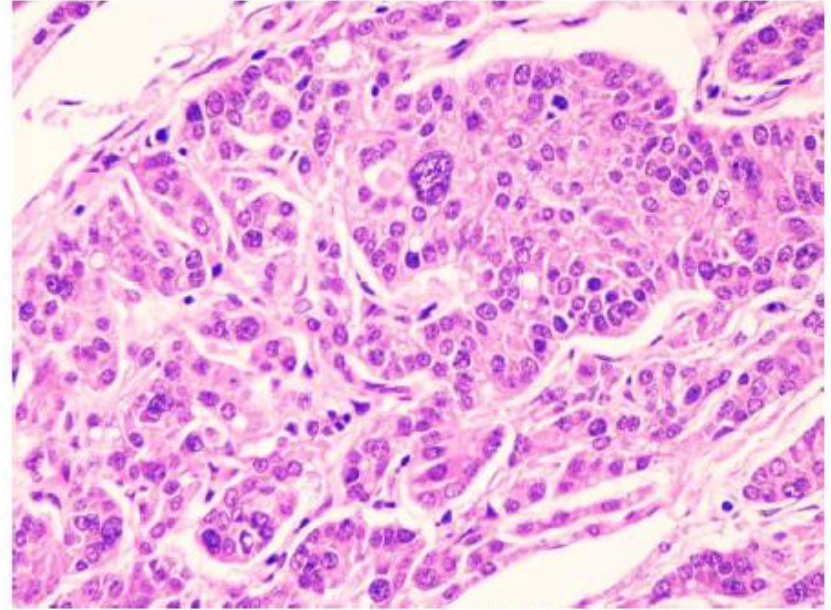
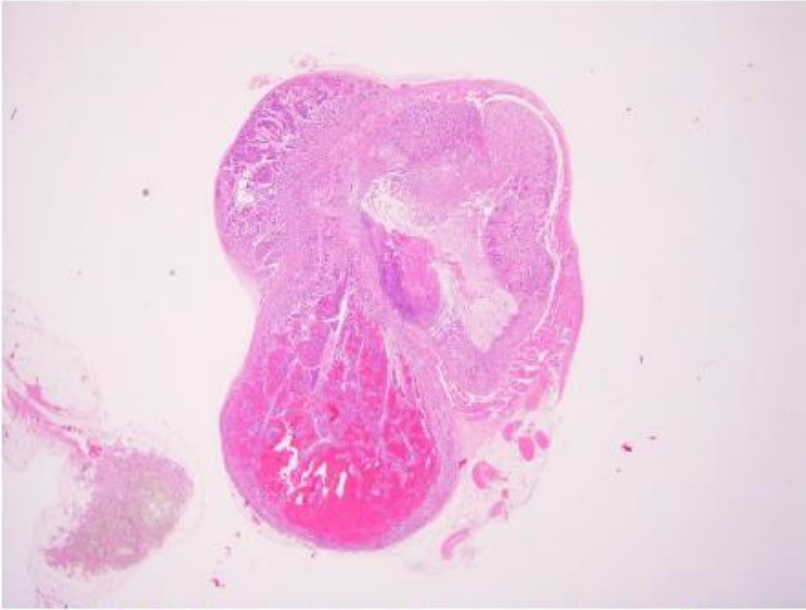
コメント

胃の神経内分泌癌は、胃粘膜の中に存在する内分泌細胞由来の悪性腫瘍です。幽門部で発生した場合、由来細胞の候補としては、ガストリン産生細胞（Gastrinoma）、ソマトスタチン（Somatostatinoma）、グレリン（Ghrelinoma）などが考えられます。また、今回の標本では、リンパ節転移が認められることから、悪性腫瘍であると判断されます。産生されるホルモンによらず、モモンガでの報告はデータベース（Pub Med）や教科書（Pathology of domestic animals）に記載がなく、非常に希少な症例です。

診断に関しましてご不明な点やご質問等がございましたら、お気軽に診断医までご連絡ください。

診断医：河村 芳朗 獣医師、獣医学博士

組織写真 (全 4 枚)



左上：腫瘍の弱拡大像です。

右上：腫瘍の強拡大像です。

左下：腫瘍のリンパ管浸潤像です。

右下：腫瘍のリンパ節転移です。